

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	つながるアウトリーチ強化プロジェクト
資金分配団体名:	公益社団法人ユニバーサル志縁センター
実行団体名:	特定非営利活動法人どりいむスイッチ
実施時期:	2021年6月～2022年2月
事業対象地域:	広島県
事業対象者:	児童養護施設等を退所して（おおむね10年以内）、県内に居住又は通勤・通学している方を主な対象としているが、一時的に施設等に入所していた方なども対象として支援する。

Version 3.2

日付: 2022年3月19日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>コロナウイルスの影響によりケアリーバーが困窮した状態に陥るケースが増加していると考え、このような状態を打開するためには、「会いに行く支援」「困る前からの支援」を早急に、今より多くの若者へ届ける「つながるアウトリーチ」を実施した。</p> <p>第一にケアリーバーとつながるための周知活動（関係機関との連携、LINE相談カードの配布）を行った結果、退所者利用実人数は前年度の5倍となった。</p> <p>第二に、つながった若者と信頼関係を構築するための継続的なアウトリーチを実施し、そのための体制づくり（ボランティア養成、研修の実施）を強化した。ボランティア養成講座は、延べ65名が参加し、内8名がボランティア登録に至った。支援者向けの研修は20名が参加し、その後継続的な勉強会として「ひろしまアフターケア勉強会」が発足した。</p> <p>第三に、若者が困った時に支援できる体制（資金、ネットワーク）を整え、緊急の食糧支援や支援機関との密な連携を強化した。</p> <p>このように多くの対象者、支援機関と繋がり、当初の計画を大きく上回る成果をあげることができた。今後は、今年度の繋がりをさらに県全域に広めていくことを意識して活動したいと考える。</p>
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>コロナ禍により今までよりも「困ったときに大人に相談する」ことが難しくなったケアリーバーに対して、「会いに行く支援」「困る前からかわかる支援」を実施した。</p> <p>今年度もコロナの状況は時期によって大きな差があり、私たちが訪問した時にも「誰とも会っていない」「このことは他の人には相談できていない」と話す対象者も多かったため、課題や対象は概ね適切であったと考える。しかし、1月からの感染爆発状態では、私たちすら会いに行くことが難しくなったため、郵送で食べ物や日用品を送る活動に切り替えた時期もあった。これは、想定外の活動であったが、遠方の対象者にも届けることができ、好評であったため、今後続けていきたい。</p> <p>一方、アウトリーチや支援機関との連携の強化に力を注ぐあまり、今まで日常的に居場所を使っていた対象者を日によっては断らなくてはいけなくなったり、ゆっくり話が聞けない時もあった。現在では、居場所にくる対象者よりもアウトリーチで私たちが会いに行く対象者の方が多くなってきているが、居場所という拠点を開けておき「いつでも来れる、話せる」という環境を作ることも大事であると考え。このため、年度途中から臨時スタッフを配置するという変更もあった。計画当初の目標値は概ね達成したものの、広島県には私たちが繋がれていないケアリーバーがまだまだ存在している。今後取り組みを拡大していくためにも次年度は、次年度以降も活動を広げていくためには人員強化が必須であると考え。</p>
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）（事業計画から転記）	④指標（事業計画から転記）	⑤目標値・目標状態（事業計画から転記）	⑥結果(定量化できるものは%も記載、最大100%)	⑦考察
その他	相談先の不足	1.若者が深刻な困窮に陥る前に当団体や社会資源につながる事ができる	①カモミール利用実人数	①35名	①102名（100%）	LINE相談カードを作成し、広報したことで支援機関からつながる対象者が増加した。また、食糧支援などを実施する中で、直接つながる対象者も増えつつある。
その他	相談先の不足	1.若者が深刻な困窮に陥る前に当団体や社会資源につながる事ができる	②LINE利用回数	②540回（1カ月60回）	②795回（100%）	食料支援など対象者にとってメリットのある情報を定期的に配信する、新しくつながった対象者にはまめにLINEを送るなどすることで増加した。
その他	相談先の不足	2.若者が継続的に自立生活に必要な支援を受けられる事ができる	③アウトリーチ実施回数	③90回（1ヶ月10回）	③247回（100%）	お弁当配達や食料支援など会いに行く口実を作って定期的に会いに行き、交流を深めた。
生活困窮者	相談先の不足	3.若者が困ったときに緊急支援を受けられる事ができる	④緊急対応実施回数	④80回（4人×20回）	④54回（67%）	定期的に連絡をとることで、「コロナ陽性になった」「妊娠した」など本当に困った時に連絡をしてもらえる関係を築くことができた。
その他	連携の不足	1.若者が深刻な困窮に陥る前に当団体や社会資源につながる事ができる	⑤支援機関との連携回数	⑤180回（1カ月20回）	⑤438回（100%）	LINE相談カードをもった訪問や、勉強会の開催、対象者の課題に関など、あらゆるチャンネルで支援機関と関わる機会を作ることができた。
その他	連携の不足	2.若者が継続的に自立生活に必要な支援を受けられる事ができる	⑥ボランティア登録者数	⑥2名	⑥8名（100%）	Vo養成講座の参加者に対して事業所の見学を提案したことで、アンケートには「ボランティア登録は検討中」と答えていた方が見学を経て「ボランティア登録」となった。
その他	連携の不足	1.若者が深刻な困窮に陥る前に当団体や社会資源につながる事ができる	⑦研修参加者数	⑦延べ50名（SV・VO・県内勉強会）	⑦123名（100%） SV：4回実施 VO：3回実施延べ65名 県内勉強会：3回実施58名	ボランティア希望者だけでなく、アフターケアに関心のある方の参加も歓迎することでボランティア養成講座の参加者が増加した。また県内勉強会も当初予定していた1回の開催から継続的な勉強会が発足し期間内に3回開催することができた。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況（事業計画から転記）	<p>若者（特にケアリーバー）が困窮せずに生活できることを目標とする。そのために以下の状態を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.若者が深刻な困窮に陥る前に当団体や社会資源につながる事ができる 2.若者が継続的に自立生活に必要な支援を受けられる事ができる 3.若者が困ったときに緊急支援を受けられる事ができる
考察等	<p>昨年度と比べ、つながる若者の人数は各段に増加している。加えて、食料支援や緊急支援など「お金がかかる支援」をお金の心配をすることなく実施できることで、アプローチの幅も広がっている。この結果、困ることがあっても、困窮する前に支援することは概ねできていると考える。一方、困った時に「困っている」と大人に言える関係がすぐにはできないわけではないというの痛感している。関係づくりには時間がかかるため、今後このような活動を継続的に実施できる土台作りが課題である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.つながった若者の実人数は、102名であった。前年度退所者利用実人数は年間21名であるため、大幅な増加である。各機関への広報とLINEでの食糧支援の案内が功を奏したと考えられる。 2.食料提供でつながって信頼関係を構築し、相談が始まるケースが増えてきている。 3.11名に対して延べ54回の緊急対応を実施した。金銭トラブルや住居喪失、コロナによる隔離生活などへの支援を行った。

V. 活動

活動	進捗	概要
行政、支援機関などへの広報	計画通り	主に活動前期に近隣の児童福祉施設や行政機関、民間支援団体などを訪問し、LINE相談カードやアウトリーチについて直接案内した。
関係機関との情報共有	計画通り	個別の支援対象者のことやアフターケア勉強会、現在行っている支援（食糧支援など）などについて電話を中心に情報共有を行った。
LINE相談カードの作成、配布	計画通り	6月にLINE相談カードとつながるアウトリーチを説明するフライヤーを作成し、配布した。
県内関係機関を対象とした連携体制づくりの研修	計画通り	9月の勉強会を発端に継続的にアフターケアにかかわる団体が集うアフターケア勉強会を開催することとなった。 9月：神奈川モデルを参考にアフターケアを考える 10月：広島県内の行政及び実施団体によるアフターケア意見交換会 11月：第1回ひろしまアフターケア勉強会「退所後のお金の話」 2月：第2回ひろしまアフターケア勉強会「裏社会の断ち切り方」
アウトリーチの実施	計画通り	緊急支援やアウトリーチ食費などがあることで利用者と関わるツールが増え、困る前からつながり、困りごとを聞ける関係性を作ることができた
ボランティアの養成研修	計画通り	延べ65名が参加し、8名がボランティアとして登録した。 また、登録には至らなかった方も寄付やSNS拡散などの形で協力していただける関係を作ることができた。
ボランティア活動	計画通り	8名登録。 1月から活動開始予定であったが、コロナ感染者の増加により、現在は活動中止中。
SVの実施	計画通り	SVにとどまらず、ネットワーク会議や勉強会にも参加していただき、外部の立場から痒い所に手が届く発言をしてもらうことで、機関連携が促進された
緊急対応の実施	ほぼ計画通り	濃厚接触者となった若者への食糧支援や、体調不良の若者の救急車で病院同行、仕事先での金銭トラブルの仲裁、住居喪失による生活保護申請など、さまざまな緊急対応を行った。一方、後半はあまり緊急対応がなく、私たちが緊急事態を察知できていない可能性もある。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>ボランティア養成講座、ひろしまアフターケア勉強会は、想定外の成果を挙げたと考えている。</p> <p>ボランティア養成講座は、想定よりも全国から多くの方に参加していただき、その後、私たちが想定した居場所のボランティアだけでなく、企業連携や寄付、SNSの拡散協力など、それぞれの方の持ち味を活かした形でサポートをしてくださる関係となっている。</p> <p>アフターケア勉強会は、もともと計画になかったが、SVの中で「施設職員との関係がうまく築けない」と話したところ、「継続的な勉強会を通して繋がってみては？」とのアドバイスをいただき、はじめることができた。その結果、今まで遠方で関係がまったくできていなかった施設からの参加も徐々に増え、少しずつではあるが顔の見える関係ができてきている。</p>
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチや連携を強化した分、居場所の運営などももとの活動に割く時間が減ってしまっている。居場所を開けておくことも大切であるため、スタッフの増員が必要である。 ・広島東部での支援は、おおむね目標を達成しつつあるが、広島県全域にはまだまだ支援を上げられていない状態である。どこに住んでいても、支援できるようになるために、オンラインの充実や各地域の支援者と繋がることが次の課題であるとする。 ・今年度は、ボランティア養成講座などを通して、地域に住む大人の力を強く感じた。来年度は「何かしたい」と思ったださる地域の方を巻き込む仕組みを模索したい。
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
児童養護施設	近隣施設は、コロナ禍のため訪問は難しいものの、情報共有や共にアウトリーチに行くなど、連携して動く回数が増加した。 遠方施設も勉強会への参加や食糧支援という切り口で交流を深めつつある。
児童相談所	今までは県内に4つある児童相談所のうち近隣の1施設としか連携ができていない状態であったが、勉強会を通して繋がることができ、遠方でも協力できる関係が構築されつつある。
企業	社会的養護に関心のある経営者にもボランティア養成講座に参加いただき、知識を深めていただくことができたことで、今後の連携がしやすくなったと感じる。 一方、今年度は我々の方から協力企業を開拓することができなかったため、来年度は強化したい点である。
地域の大人	ボランティア養成講座や寄付（Amazonほしいものリスト）を通して150名程の方がカモミールの活動に関心を寄せてくださっていることがわかった。 中には、対象者に仕事を依頼して下さったり、家具家電を探して下さったりする方もいらっしゃった。 支援者ではない良い意味で「普通の大人」と対象者を出会わせる仕組みを今後作っていきたいと考える。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	1,429,000	1,346,781	94.2%
	管理的経費	198,000	198,409	100.2%
合計		1,627,000	1,545,190	95.0%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	<ul style="list-style-type: none"> ・LINE相談カード ・つながるアウトリーチチラシ ・ボランティア養成講座チラシ ・神奈川モデルを参考にアフターケアを考えるチラシ
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア養成講座チラシ
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	整備中	元々規程類はあるが、コンプライアンス委員会等、一部の規程は現在整備中。
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	一部未公開	定款は一般公開しているが、経理規程や給与規程などは一般公開はしていない。
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	いいえ	現在は、理事長がコンプライアンス責任者に該当する責務を負っているが、コンプライアンス規程等については現在整備中のため。
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	いいえ	現在整備中のため。